

NEWS^{にゅーす}あらがると

住吉輝紗良さん（倶高1年）ワールドカップに出場!!

倶知安高校1年生の住吉輝紗良さんが、2月25～28日に秋田県仙北市で開催されたフリースタイルスキーのワールドカップ（W杯）に出場しました。結果は、モーグル競技（一人で滑る形式）で23位、デュアルモーグル競技（2人で同時に滑るトーナメント形式）で16位という成績を収めました。

初めて出場したW杯を終え、住吉さんは次のように話してくれました。「世界では私の他に注目選手がたくさんいて、いい意味でプレッシャーも感じなくて、楽しく滑れました」

小学校2年生のときに、親の勧めでモーグルを始めたそうです。スキー板を縦にして、より直線的に滑ることでスピードを増すカービングターンが得意だと言います。

「トップ選手は、私よりもスピードのある選手がたくさんいます。もつとスピードに磨きをかけていきたいです」

W杯後も活躍を続ける住吉さん。3月6日に札幌市で行われた宮様スキー大会では、見事2連覇を果たしました。また、4月9・10日に予定されているジュニア世界選手権への出場を決めており、「エアー」の練習をたくさんして

高得点を目指したいと思っています」と抱負を話してくれました。

来季以降の目標についても話をうかがいました。

「道内の大会は全て優勝を狙っていきたいし、全日本でも優勝を目指したいです。何より、札幌で開かれる冬季アジア大会に出場できるように、練習を重ねていきたいです」

倶知安町出身で、今も倶知安町を拠点に活動を続ける住吉さんの今後の活躍に、期待が集まります。



△ W杯出場前に町長を表敬訪問



▽見事なエアーを決める住吉さん（写真：本人提供）

マチナカにぎわいを

新幹線まちづくり勉強会

3月2日（水）、文化福祉センター大ホールにて、第3回新幹線まちづくり勉強会が開かれ、町内外から約200名が参加しました。

講師の西村浩さん（建築士）は、昨年開催した第2回勉強会でも講演してくれた人で、ものづくり・まちづくりに携わってきた自身の経験をもとに、約1時間半に渡り話してくれました。

「最高の質を用意することが重要です。ハコ（建物）があれば人が集まった高度経済成長の時代とは違い、人口減少社会の現代は、コンテンツと仕組みを先に作る時代です。面白いコンテンツ、持続可能な仕組みを作り、そこに必要なハコを作ればいいんです」

西村さんは、このように人を集めるためには、コンテンツの充実が大切だと話してくれました。

講演後には、第1回倶知安町新幹線まちづくり絵・習字コンクールの表彰式が執り行われ、受賞した14名の小学生が西江町長より表彰されました。作品について町長は、「子どもたちの創造力・独創力は素晴らしいものだと感じました。笑顔で明るく活動感のある未来の倶知安に向けてまちづくりを進めていく上で、大きな勇気をもらいました」と講評を述べ



べました。

最後に行ったパネルディスカッションでは、新幹線まちづくり検討委員会の佐藤裕委員長をコーディネーターに据え、うれしは主催planning代表の竹村由紀さん、倶知安商工会議所青年部会長の吉田聡さん、倶知安青年会議所未来へのひとづくり委員会委員長の門田淳さんの3人をパネラーに討論を行いました。パネラーに、自身の活動の中で感じたまちづくりに関する課題を話してもらい、それについて西村さんにコメントを求める形で進められました。



西村さんは、子どもが集まれる環境作りに取り組んでいる竹村さんの活動を採り上げ、「子どもだけではなく、お母さんも一緒に集まれる環境を整え、ビジネスにつなげていくことが今後のまちづくりのポイントになると思います」と話していました。

（訂正とお詫び）

3月号において、第1回倶知安町新幹線まちづくり絵・習字コンクールの受賞者である田口翔大さんのお名前を、誤って将大と記載してしまいました。訂正してお詫びいたします。

雪と親しむ！ 百年の森 雪中キャンプ！

3月12日（土）～13日（日）、百年の森で雪中キャンプが開催されました。

百年の森ファンクラブの主催で開催されており、今年で18回目を迎えます。集まった32名の参加者は、みんなで協力し宿泊用のスノーヒュッテを作りました。

大人が雪のブロックを切り出して積み重ねていき、その隙間を子どもたちが柔らかな雪で埋めてゆきます。

4段ほど雪のブロックを積み重ねて、その上からテントをかぶせたら完成です。

今年は暖冬だったせいもあり、雪のブロックが崩れやすく、参加者は雪を踏み固めるなど、試行錯誤している様子でしたが、約2時間で立派なスノーヒュッテが出来上がりました。

参加者は、夕食の焼肉に舌鼓を打ち、暖かなスノーヒュッテで一夜を過ごしました。

時として厄介者になることもある雪ですが、多くの楽しみも与えてくれます。



木の曜日講座 C・W・ニル氏講演会

3月17日（木）、風土館で、木の曜日講座の一環として、小説家、ナチュラリストとしても知られる、アファンの森財団理事長のC・W・ニル氏が講演を行い、集まった約80名の参加者を魅了しました。

ニル氏は、自身の生い立ちや、来日に至るまでの経緯などを流暢な日本語でユーモアを交えながら語り、会場は笑い声の絶えない和やかなムードに。

「森は疲れた人の心も体も癒します」と氏は語りました。

「心の森プロジェクト」など、児童

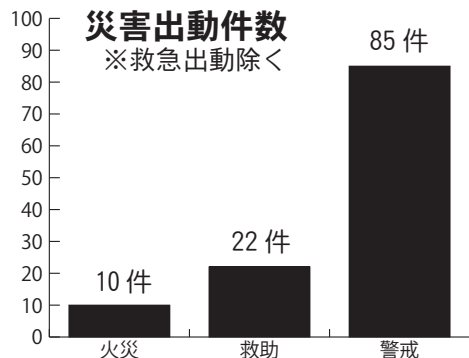
虐待などで心に傷を負ってしまった子や、東日本大震災で被災した人々への支援を続けているニル氏の言葉に、参加者は真剣に耳を傾けていました。講演が終了してからは、参加者から多くの質問や意見が飛び交いました。

今回の講演は、自然とともに生きる姿勢を学ぶ良い機会を与えてくれたようです。



平成27年倶知安町警防概況

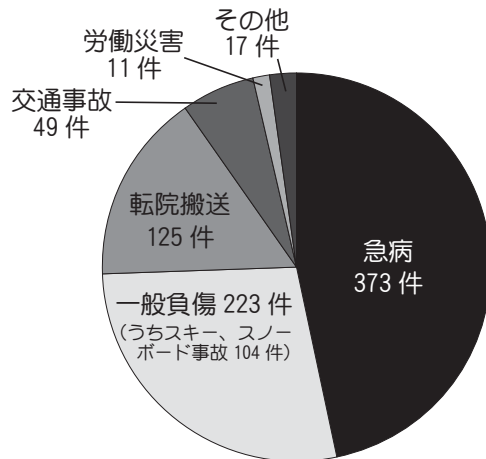
平成27年の町内の災害出動（救急出動を除く）は117件（前年107件、前年比10件増）で、消防職員延べ669人、消防団員36人が活動しました。



※警戒とは、火災と紛らわしい事象、危険物漏洩事故、Drヘリ離着陸支援活動など消防隊の警戒が必要な出動です

救急出動

救急出動は798件あり、726人搬送しました。（前年781件、前年比17件増）



消防訓練を実施

3月6日（日）、北海道電力水力センター（北4東6）において、消防訓練が実施されました。

訓練では、北電施設内より出火したと想定し、消火訓練と逃げ遅れた人の救助訓練を行いました。また、周辺で落雪事故が発生したと想定した救助訓練も同時に行いました。

3月6日の消防訓練は、昭和18年の同日に発生した布袋座火災を風化させないため、毎年実施されています。町民の皆さんも、火災事故への備えと、事故を起こさないよう火の元への注意をお願いいたします。

